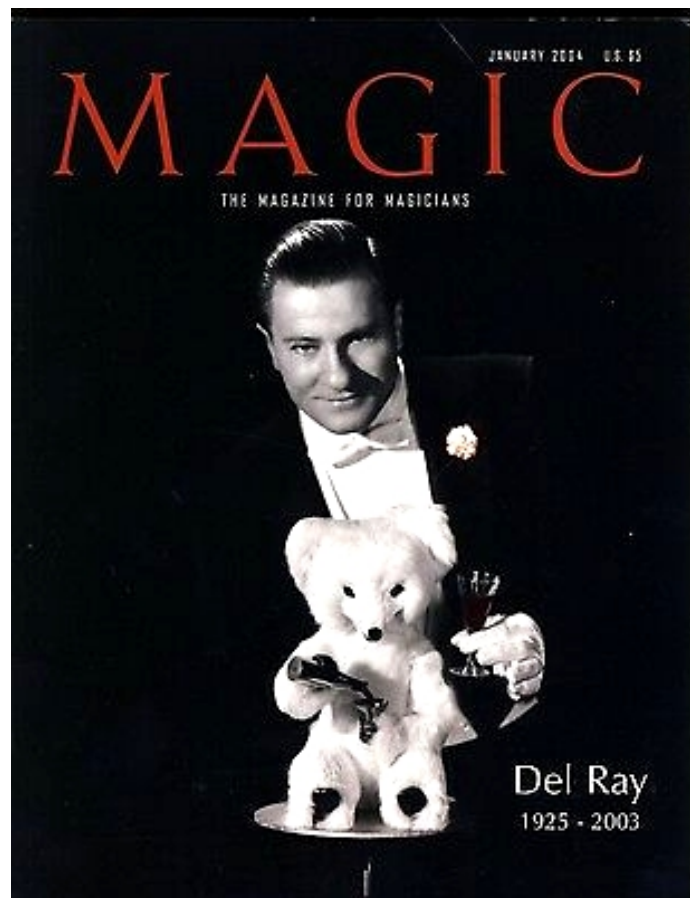


* 世界のマジックとマジシャンに関する歴史情報集 *

マジシャンズ・トレジャー

[マジシャン編]

デル・レイ



国 籍:アメリカ

生 誕:1927 年 11 月 28 日

逝 去:2003 年 11 月 11 日

タイプ:ステージマジック

種 目:電気仕掛け使用。

情報欄:https://geniimagazine.com/wiki/index.php?title=Del_Ray

動画欄:<https://www.youtube.com/watch?v=91lIVCdmIpI>

デル・レイという素晴らしいマジシャン

私は Del Ray というマジシャンを知りませんでしたが、フレンチドロップのコラムにおいて、石田隆信氏がたいへん称賛されていたのを読んで、調べるとここにいたしました。まずは石田氏が書かれていることを以下でお読みください。

<https://www.frenchdrop.com/column/?page=016>

石田さんは Ray のステージマジックを、引退表明時の演技よりもまえに見られなかったことを悔やんでいたと書かれていますが、石田さんは熊を使う演技のことを書かれていましたので、石田さんが見たのは、以下の動画のような演技だったのでしょうか。

<https://www.youtube.com/watch?v=u-jOWCa0gFc>

“MAGIC”, 2004 年 1 月号には、Max Maven が Del Ray について書いています。その中の一節につぎの一文があります。

1940 年代の終わりまでに、彼は再び独り立ちし、ナイトクラブサーキットでのツアーを再開しました。ピッツバーグのクラブでの契約中に、彼は若いパフォーマーを育て励ました裕福なアマチュア、ラルフ・シュガーの世話になった。デルは、「ラルフが私に大きな成功をもたらす自信を与えてくれました。何百時間も、シュガーの自宅の劇場で、観客のラルフだけが唯一の審査員としてリハーサルに費やされました」。彼らはその練習をカラーフィルムで撮影し、それによってすべてを詳細に研究し、分析することができたのです。

この細やかな努力が実を結びました。1950 年代までに、ケンタッキー州の友人ビル・ドッドソンの優れた技術的援助により、デル・レイは、当時の他のソロ・マジシャンとは一線を画す、驚くほど独創的な内容に満ちたユニークな演技を作り上げました。彼のステージルーチンは 25 分に及ぶ可能性があります。その公演前の準備には 3 時間かかりました。

親友の Ralph Schugar は金持ちで、彼の家に小劇場があり、そこで 1 人だけの観客の Ralph だけを相手に、何 100 時間もリハーサルをやり、アクトを撮影して細部をチェックしたと書かれています。このようなことをやることは、マジックアクトを磨き上げることに於いて重要なことです。他人に見てもらふことと、撮影して自分も見るということです。

さらには技術的なサポートをしてくれた友人がいて、ユニークなアクトを完成することができたとも書かれています。以上のことは、マジシャンのアクトというものが、チームワークによってより良いものが作れるということを示しているとは言えないでしょうか。

[追 記]

上記の文章を校正時に読んで、言葉が足りなかったことに気づきました。それは、演技を撮影して、それを二人で見てコーチが指導をするというやり方についてです。撮影しないでコーチがあれこれと指摘するだけでも、撮影した映像を二人で見ながら、「ここでは左手がもっと上にあった方がよい」とか、「この部分は少しゆっくりやった方がよい」というように話せば、修正点がより明確に把握できるはずです。

そして思い出したことがあります。このように演技を撮影して、コーチと本人で見て検討するというやり方は、私自身もやっていたということです。

それは、ある有名なテーマパークのマジックショップで、私がマネージャーをやっていた時のことです。ショップのデモンストレーターは私を含めて4人いましたが、私たちの仕事は商品を売るということには注力しないで、実演を面白く、お客様が感動するような演技をすることにありました。それがうまくできれば、売上は自動的についてくるのです。

私たちの1回の実演は、3分半～4分が理想的でした。色々なやり方を試してみて、まずその時間で締めくくることが、私たちのショップを訪れるお客様には、ひとつの条件でありました。(お客様には、他にまわりたい店や場所がたくさんあるからです)。まずその原則を守ること。そんな短時間で4種類のマジックを感動的に見せるには、余分な動作や余分なセリフは省く必要があります。毎日同じことを繰り返していると、慣れることによってうまくなるのではなく、だんだん本来のやり方から外れていきがちになります。

それを防ぐため、私は半年に1回ぐらいは、各人の実演を撮影しました。そしてやり方やセリフをお互いに検討したのです。実演カウンターの横から撮影しますから、実演と同時にお客様の反応もよく観察できます。当然撮影すれば実演時間もわかります。私はそのようなことを繰り返して、実演が4分を超えたらよくない実演だと判断しました。すごい速さで実演をトライしてみて、同じ手順を2分半でやったこともあります。それはいささか異常な速さではありましたが、遅すぎるよりも速すぎるぐらいの方がよいことがわかりました。

今回の仕事でまことに多くの動画を見てきましたが、演技速度が遅かったり、余分な動作や話が多いものは、見ていて苦痛に感じるようになりました。はたして動画を見せてくれている人たちは、撮影した動画を自分で見て、そのようなことをチェックしないのでしょうか。もちろん私が取り上げているのは、下手くそな素人や、どうでもよいようなマジックではなく、マジックを見せることを生業にしている人たちや、見せることによってそのマジックを販売しようとしている人たちです。

ということで、マジックをより素晴らしく見せるための練習には、演技を撮影して、それを本人と本人以外の人が検討するという、デル・レイがやってきた手法がたいへん有効であるということを、はっきりお伝えしたいために、この追記を書かせていただきました。

デル・レイのマジックの演技について話を戻します。校正時にもういちど紹介した動画を見たところ、すごく気になったことがあります。いつも下を向いて演技していることです。背中が丸くなっていますから、これが石田氏が、若いころの演技を見たかったと言われたことだったのかもしれませんが。石田さんが称賛されていたクローズアップの動画はないかと探したところ、デヴィッド・ベン以下のサイトで紹介されていました。

<https://www.magicana.ca/news/blog/take-two-29-del-ray>

やはり、ステージでの動画のときよりもはるかに生き生きとした演技です。なるほど、このような時期のレイのステージアクトを見たかった、と言われた石田さんの気持ちがわかりました。

デル・レイというマジシャン

= "Genii", 2004 年 2 月、執筆者: Jon Racherbaumer =

私が初めてデル・レイに会ったのは 1973 年、マイアミで開催された最後の SAM/IBM 合同コンベンションだった。彼の写真が掲載された古い本を持っていたが、それまでは彼のことを知らなかった。その夜、デル・レイのパフォーマンスを見た後、私は信じられない思いでその場を立ち去り、本物のマジックに最も近いものを目

の当たりにしたと感じた。彼の無言のステージでは、いつでもテーブルから小さな火の玉が飛び出し、空中でシルクや火のついたタバコになる。白い手袋をはめた彼のカード・マニピュレーションは、気品とスタイルのレッスンだった。カードの箱が「誤って」床に落ちたとき、彼が指を鳴らしただけで、箱はテーブルの上に飛び移った。色が変わるキャンドルを演じるときは、キャンドルはテーブルの上のホルダーに置いたままで、デルはタバコの煙をキャンドルに吹きかけたただけだった。ろうそくは触れることなく変化した。

デルは手品師の知性をあざ笑うかのように、手品師に逆らった。テーブルの上に置かれた小さな鳥かごをシルクで覆うと、布や鳥かごに触れることなく、シルクは瞬く間に消えてしまう。カゴの中には、まえに消えた鳥が入っている。

「彼のクローズアップマジックは、何百マイルも離れたマジシャンたちを引き寄せた。彼がテーブルで選ばれたカードをミスコールしたとき、誰もが彼がミスしたことにショックを受けた。しかし、観客にカードの名前を尋ね、デルが威圧的な声でカードに命令すると、カードは触れることなく裏返し、選ばれたカードであることが明らかになった。糸は使われていない。彼の「ダイススタッキング」は他の追随を許さなかった。数年前、ブラックストーン・シニアのアシスタントとしてツアーに参加したとき、彼は徹夜で他の選手が寝ている間にダイススタッキングの練習をしたと話してくれた。同じくブラックストーンのアシスタントだったディック・ベリーは、デルがダイススタックを完璧にするために、10 セント硬貨をスタックする練習をしていたことを思い出した。一晩中、他の人が寝ている間にコインが落ちる音を聞いていた。

「1995 年、フロリダ州大会でデル・レイを雇ったとき、私は彼が健康を害して引退を考えていることは知っていたけれど、私たちのグループのために出演してもらうことが私の夢だったと話した。デルは飛行機には乗らず、どんなに遠くても車で移動していた。これも、彼が私の招待に応じてくれたことを喜び、驚いた理由のひとつだ。彼は 70 歳を過ぎて、ピッツバーグの自宅からフロリダまで 1000 マイル以上もの距離を一人で運転しなければならなかった！また、デルは大会を主催する大きなホテルに泊まるのが好きではなかった。彼は、「車をドアまでバックさせて」寝られるモーテルに泊まることを好んだ。晩年は体調不良のため、短い距離を歩くのも困難になった。7、8 年前でも、電話で話すのは難しかった。それでも、彼は話すことが大好きで、私との会話を終わらせたくないと感じていた。

オーランドで開催された 1995 年の大会で、司会者の紹介で幕が開いたとき、私は期待に震えていた。妻は私の手を握りしめ、私が過去に戻ろうとしていることを理解した。しかし、その夜、何かがひどく間違っていた。デルのマジックの一部がうまくいかなかったのだ。デルは、その場はうまくいったが、いくつかのマジックがうまくいかなかったのだ。その晩の司会者であったトム・マリカは、ポケットベルと携帯電話の電源を切るよう皆に求めた。また、劇場がユニバーサル・スタジオの真向かいにあり、彼らのショーで使用される電波も一因だったようだ。それにもかかわらず、デルは勇敢にショーを続けた。公演が終わり、ファリルと私は舞台裏にデルの様子を見に行った。彼は椅子に倒れ、ファリルに薬を持ってくるよう頼んだ。彼は何が起こったのかわからなかったが、私たちと数人の友人を舞台裏に残らせ、さっき失敗したマジックが問題なかったかどうかを確かめさせた。そして私たちは、このステージでの「奇跡」を間近で見ることができたのだった。

数日後、家に入ると、ファリルが電話で泣いていた。彼女は私に電話に出るように手を振った。相手は偉大なるデル・レイだった。彼も涙ぐんでいた。彼は精彩を欠いたパフォーマンスでみんなを失望させたと感じていたので、小切手をどこに送り返せばいいのかと尋ねた。少なくとも彼は、自分の高い水準に達していないと感じていた。私は、『君のクローズアップは、大会全体の入場料に値するものだった』と言った。私は彼に小

切手は返す必要はないと言った。実際のところ、私は彼に2年後の次の大会のために戻ってくるように頼んだ。彼はまた泣き出した。これは彼にとって贖罪の機会だったのだろう。私はいつも、デルが若く多感なマジシャンに「本物のマジック」の本物の姿を見せたがっていると感じていた。2年後の大会で、彼はまさにそれを実行した。すべてが完璧に機能した。

ある夜、私たちはデニーズ・レストランで夜中の3時まで過ごした。私は彼に、クルーズ船でマジックを演じたことがあるかと尋ねた。彼はこう答えた。「何年か前、アルゼンチン号という船でやったんだ」。信じられないだろうがその時、私はまったく同じ船とコンタクト交渉の真っ最中だった。2週間後、アルゼンチン号に戻った私は、自分が立っているステージでデル・レイの奇跡を見るときしたら、それはどんな感じだっただろうと、ぼんやりと考えていた。プレゼントとして、デルは私に彼の作品を送ってくれた。ほとんどのマジシャンを欺くことができるだろう。デル・レイは最後まで発明品を作り続け、電話で話すのが好きだった。彼の声や呼吸の苦しみを聞くのは辛かった。しかし、デル・レイは根っからの本物のマジシャンであり、完全に無二の存在であった。

デルの追憶への追記として、私たちは温かく鮮明な思い出で悲しみを癒そう。デル・レイのマジックを目撃する機会に恵まれた人たちは、彼が観客と戯れ、真に戯れたときの勝ち気ないたずらっぽさを覚えている。彼がいかにデッキとダイスに執着していたかを。ピッツバーグ出身の物腰の柔らかい男が、「マジック」とはどうあるべきかという彼の夢を信じるよう、私たちを誘惑したことを覚えているのだ。夢は眠らせるために見るものではなく、目覚めさせるために見るものだ。デル・レイの夢のようなマジックは、決して誰も眠らせなかった。それどころか、私たちを「im-possible」の中の「possible」に目覚めさせてくれたのだ。そしてこの生き生きとした思い出は、友人たち、喪に服した仲間たち、私たちが現在共有している喪失感を相殺するものなのだ。

最後は感傷的な話で締めくくられていますが、それだけレイチェルバウマーがデル・レイの人柄とマジックへの情熱に感じ入っていたことが伝わってきます。そのような熱波を人に伝えられるのも、マジシャンの素養の一部であるのではないのでしょうか。

デルレイ：アメリカ最高峰のマジシャン

= "GENII", 2012 年 3 月、執筆者: Jamy Ian Swiss =

これは、John Moehring 著 "Del Ray: America's Foremost" の書評記事です。

デル・レイはキャリアの絶頂期に、「アメリカ最高峰のマジシャン」として宣伝されていたため、この死後に出版された伝記のタイトルもその呼び名がそのまま使われている。この呼び名が単なる宣伝用の誇張表現ではなかったと知ったとき、読者は驚くかもしれない。ジョン・モーリンによるこの伝記は、インタビューやその他の調査に加え、レイの長年の友人や同僚3人から提供された資料や情報の多大な協力を得て作成されたが、そこから少なくとも分かることは、デル・レイが長く輝かしいキャリアを通じて、信じられないほど成功し、多忙で、勤勉で、高額報酬を得ていたプロのマジシャンだったということだ。1950年代、彼はビバリーヒルズからニューヨーク、テキサスからシカゴ、さらにはキューバまで、ナイトクラブ市場の最上位で着実に活動していた。彼の注目すべきステージ演技は、通常のマジックに加えて、電気機械工的な驚異で、他のすべてのマジシャンとは一線を画していた。カードが操作される間に自然発生的に火が空中を飛び、カナリアが消えて再び現れ、機械仕掛けのクマが命令に従って繰り返し乾杯の杯を注いだり飲んだりした。

このクマを作ったデル・レイは、オハイオ州の小さな町の孤児院で育ち、幼いころからマジックに興味を持ち、すぐにマジックの完璧主義者、また機械の発明家になった。彼の練習量はどうやら無限だったようで、それは彼が初めてブラザー・ジョン・ハマンの「ファイナル・エース」ルーチンを発見した時の素晴らしい逸話からも

わかる。このルーチンは後にデルのお気に入りのトリックとなった。コンベンションでそれを見て、彼はそのトリックを真似し、その後の2日間、ほとんど寝ることも食べることもせず、ルーチンを開発、改良、練習した。その結果、ルームメイトのマジック仲間と行くはずだったコンベンションにほとんど行けなくなった。

若いデル・レイはハリー・ブラックストーンのショーを見て、その後彼と会って感銘を受けました。しばらくして、あるマジックの大会で彼は再びブラックストーンについて調べ、少年時代に最初に読んだマジックの本の中にあるハワード・サーストンの「Fifty Card Tricks」からヒントを得て、なんとかブラックストーンのショーで仕事に就き、ツアーマジシャンとして放浪生活を始め、生涯役立つ教訓を学びました。細部までこだわるデルの執拗なこだわりが、ブラックストーンのショーで彼を昇進させ、もちろん後に彼自身のキャリアにも役立ちました。

ナイトクラブでのキャリアを通じて、デルは、キャバレーショーの後の深夜に、テーブル席やプライベートグループを前にクロースアップマジックを披露することがよくありました。これは、ナイトクラブのオーナーと常連客を喜ばせたいという彼の決意の結果である場合もあれば、副収入が得られる場合もありました。1960年代までには、彼は比類のない舞台演技と同様に、驚異的で不可解なクロースアップマジック、特にカードワークを組み合わせた驚くべきレパートリーを開発し、前例のない電子機器やリモートコントロールデバイスと深く融合させていました。小さな鳥が歌い、選ばれたカードを告げさせ、複数のサイコロを振って結果を予言しました。小さな陶器の動物が命令に従ってバランスを取る芸を披露しました。小さなネズミが大きなテーブルの表面を這い回り、最終的に観客のカードを見つけ出しました。

そして、ナイトクラブのサーキットが変化し衰退していくなか、1960年代から70年代にかけて、デル・レイは引き続き非常に多忙で高額の報酬を得るパフォーマーでしたが、主にプライベートイベント、ホスピタリティスイート、ゴルフクラブ、トレードショーでクロースアップ・エンターテイナーとして活躍するようになりました。そして、70年代以降、彼はマジック コンベンションでますます見かけられるようになり、マジシャンの間で伝説的な評判と地位が高まり続けました。彼のパフォーマンスを一度でも生で見た人は、誇張ではなく事実であるその体験を決して忘れないでしょう。

私は幸運にも、デル・レイのパフォーマンスを何度も見る機会に恵まれました。その中には、1988年のFFFFコンベンションでの長時間のショーも含まれており、その一部はこの本に付属するDVDに抜粋されています。そのコンベンションでも、ほとんどの出席者は何度も、そして徹底的に騙されたと感じていました。数日後、私は2人の著名な出席者がデル・レイのポーカーディーラー・ルーチンについて話し合っている会話に同席しましたが、彼らはそれがどのように機能するかをまったく知りませんでした。

デル・レイについては何年も前から聞いていましたが、記憶が正しければ90分近く続いた彼のパフォーマンスを初めて見たときは、それまで聞いていたものと今見たものとの違いに驚きました。マジシャンはいつも小さな機械仕掛けの動物について話し、これらの効果の背後にある技術の性質について理論化します。1980年代から90年代には、テーブルには電磁石などの仕掛けがあり、デルは隠し無線制御装置を使用していたと推測するのは難しくありませんでした。デル・レイが使用し始めた初期の頃は、そのような技術は世界中のほとんどの人にとって本物の魔法のように見えたでしょう。彼は、魔法への応用においては間違いなく先駆者でした。

しかし、私が衝撃を受けたのは、1990年までに方法論の本質的な要素を理解できたとしても、それは問題ではないということだった。私にとって、これはある意味、デル・レイのマジックとパフォーマンスの最も面白い側面だった。誰も私に教えてくれなかったのは、デル・レイがマジックの歴史に残る偉大なキャラクターアク

トの 1 人だったということだ。私にとって彼は、私が子供の頃から見ている刺激を受けてきた、もう一人の偉大な手品芸人でありキャラクターであるアルバート・ゴッシュマンに匹敵する存在だった。ゴッシュマンは完璧な人物だった。マジックは完璧で驚異的。パフォーマンスは滑稽であると同時に神秘的。キャラクターは独特で印象に残る。これらすべてがデル・レイにも当てはまった。

南西部のアクセントと紐のネクタイ、“この 50 ドル札は当たるかも。とても古いお札だけど” という決まり文句、絶妙なタイミングでのワンライナーの連続、スタイリッシュで独特なランプの扱い方、見事に人を惹きつけ、一貫して理解不能な奇跡のレパトリーなど、私にとっては、小さな動物たちは単なるおまけのようなものに過ぎませんでした。そして、その点でも、オートマタを非常に面白くしたのは、結局のところ、技術ではなく、デルが考案した魔法の筋書きそのもの、つまり動物たちが果たした役割と、動物たちが魔法の筋書きと一体化する様子、そしてまたしても彼のキャラクターでした。デル・レイは、実に素晴らしい操り人形師でした。彼の動物たちとの関わり方によって、動物たちは単なる巧妙な機械装置から、生命と個性を吹き込まれ、パフォーマンスはデルと愛らしい小さな仲間たちとの関係を描写したものになりました。これは、高度なレベルの操り人形と演技です。そして私にとって、それがデル・レイの真髄でした。

デル・レイは、自分の作品について秘密主義であることで有名で、マジック界での宣伝、インタビュー、そして何よりも、自分の作品に関するあらゆる議論や出版を避けていました。彼の秘密主義の欲求は、ホフジンザーからチャーリー・ミラーまで、他の有名で秘密主義の過去の巨匠たちと同じく、死後も続くことを意図していました。しかし、そのようなアーティストの友人、同僚、信奉者たちは、当然のことながら、彼らに敬意を表し、彼らの名声を高め、マジックの歴史の中で彼らの名前と業績を生き続けさせようとします。そして、そうすべきです。しかし、彼らは、これをどのように進めるのが最善か、そして秘密主義の問題をどのように管理するかについて、しばしば葛藤しています。

デル・レイの伝説的な秘密主義を考えると、ページをめくってデル・レイ式テーブルの内部機構の写真を見たとき、一瞬ショックを受けました。さらにこの本の資料の収集に協力した人たちは、実際にその機構をよく理解しており、開発当時この作品がいかに革新的であったかを明確にしたいと考えて、その仕組みについてかなり詳細な説明をしています。彼らがこの選択をしたことを嬉しく思います。

しかし、舞台の演技の仕組み、特にクローズアップマジックについては、説明がはるかに少ない。この本の一部には、8 つのトリックのわかりやすい技術的説明(ゲリー・プランツによって正確に再現)が含まれており、それらすべて(および他の多くのトリック)は、付属の DVD でデルが演じるのを見ることができます(制作価値は最低限ですが、特に生前の巨匠を見る機会がなかった人にとっては、この本の値段に見合う価値があるでしょう)。しかし、個々のルーチンの仕組みを直線的に説明するのは、個人に命を吹き込むこととはまったく異なるものであり、マジックに関してアーティストの思考と創造性が他と異なる点について洞察や理解を提供することとはなおさら異なります。たとえば、レイはキャリアの初期には 1 時間のカードトリックで観客を楽しませることができたと何度も聞かされますが、どのようなトリックがいつ開発されているのか、また、どのくらい開発されているのか、ましてやなぜ開発されているのかは、ほとんどわかりません。デル・レイが成長期に、ジョン・スカーニ、エド・マルロー、エディ・フェクター(私の個人的な推測では、デルにダイスカップのコントロールショットを最初に教えたのはおそらくフェクター)など、カードマジックのエリートたちと会い、親交を深めたという話が伝わってきます。また、デルが若い頃や軍隊にいたころ、モンテを金のために賭けたこともわかります(彼のカードマジックのスキルやギャンブルに関する深い知識を考えると、彼のハッスル経験がプライベートゲームにまで及んだことがあるのだろうかという疑問に思うでしょう)。

というわけで、『America's Foremost』は、さまざまなトリックが入り混じった作品です。ジョン・モーリングの入念な作業のおかげで、スクラップブックやビラ、パンフレット、雑誌記事のコレクションが、誰が、何を、どこで行ったかという詳細で読みやすい物語に生まれ変わりました。デル・レイの電気機械マジックの革新は、友人のデイビッド・ボールドウィン、ロバート・エッシャー、ウィリアム・スプーナーのおかげで確立されました。しかしながら、デル・レイという並外れたアーティストは、謎に包まれたままです。謎は消えません。

Tannen Jubilee 1983 Del Ray Stage Act Filmed By New York magician Frank Paris

<https://www.youtube.com/watch?v=91llVCdmIpI>